

## ヘルプマークを知る

ヘルプマークは、外見からは分からなくても、配慮や支援を必要としている方々が、周囲の方に知らせるために作られたマークです。

(例)聴覚障害者や高次脳機能障害者、義足や人工関節を使用している方、内部障害・難病の方、妊娠初期の方など



▲ストラップでカバンなどに着けることができます。

ヘルプマークは、2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、現在、全国的に普及が進んでおり、日本工業規格(JIS)の案内用図記号に追加されました。

他にも、周囲の配慮や援助をお願いするマークがあります



【障害者のための国際シンボルマーク】



【耳マーク】



【ほじょ犬マーク】



【オストメイトマーク】

下記の場所でヘルプマークを配布しています。  
※申請書、障害者手帳等の提示は必要ありません。  
各窓口までお申し出ください。



配布先

県庁舎本館	総合案内(受付)、障害福祉課
出先機関	各健康福祉センター、障害者総合相談所、精神保健福祉センター、とちぎ難病相談支援センター、県民相談室
市 町	各市町(障害福祉担当課他)
障害者団体等	とちぎ福祉プラザ

詳しくは、県のホームページをご確認ください。

栃木県 ヘルプマーク

検索



平成30(2018)年 11 月

制作・発行 栃木県保健福祉部障害福祉課

〒320-8501 栃木県宇都宮市埴田 1-1-20

【お問い合わせ先】

TEL 028-623-3053

FAX 028-623-3052

E-mail : syougai-fukushi@pref.tochigi.lg.jp

栃木県ホームページ <http://www.pref.tochigi.lg.jp>

とちぎナイスハート  
推進 Mascot キャラクター  
ナイチコウ

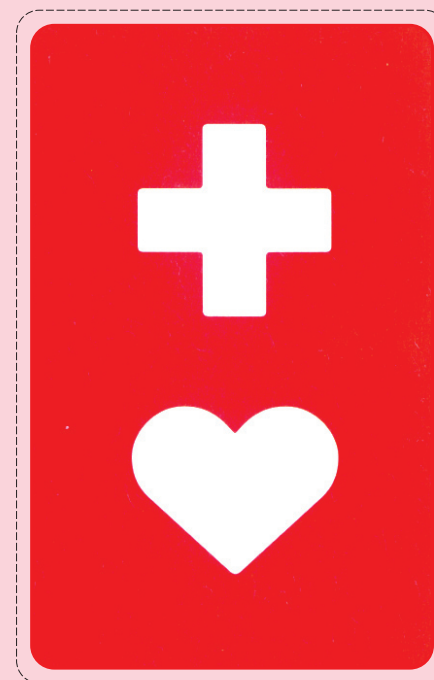


栃木県は  
障害の有無に関わらず  
誰もがお互いに  
尊重して支え合う  
「共生社会」の実現に向けて  
取り組んでいます。

※このチラシは栃木県地域福祉基金を活用し、障害者就労施設などからの優先調達により印刷しました。

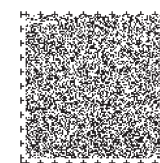
VERY  
GOOD  
LOCAL  
とちぎ

外見からは分からなくても、配慮や支援を必要としている方  
のために、ヘルプマークを配布しています。



▲切り取って使用することができます。

このコードは、目の不自由な方などのための音声コード(Uni-Voiceコード)です。スマートフォンアプリで読み取ると、記載内容を音声で聞くことができます。



# ヘルプマークを活用する

例えば

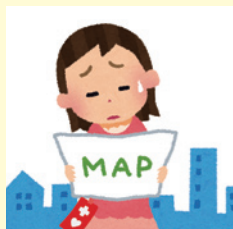
こんな時に！

電車やバスの中では…



車内が混雑していて、座れません。

駅や商業施設では…



災害時には…



災害で避難するときや、避難所でも

こんな  
風に

対応してください。



席をお譲りください。

若い人や健康そうに見えても、疲れやすい方、長時間同じ姿勢をとることが難しい方もいます。優先席でなくても、席をお譲りください。



声をかけるなどの配慮をお願いします。

「どうかしましたか？」と声をかける（相手に伝わっているかを確認しながら、ゆっくりと、簡潔な言葉で話す）などの配慮をお願いします。事故などの突発的な出来事に、臨機応変に対応することが困難な方、立ち上がる・歩行・階段の昇降などの動作が困難な方がいます。



安全に避難するための支援をお願いします。

視覚や聴覚の障害により、状況把握が難しい方、肢体に障害があり自力での迅速な移動が困難な方が、安全に避難するための支援・誘導をお願いします。

## ヘルプマークを着けた方への配慮・支援のヒント

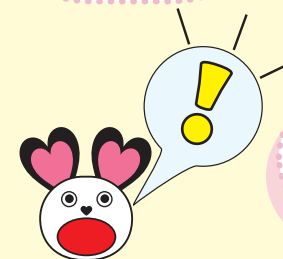
- ヘルプマークを身に着けていても、障害の内容や、手助けしてほしいことは人それぞれです。
- 聴覚に障害のある方の場合は、筆談など、コミュニケーション手段にも工夫が必要です。
- まずは、「どうかしましたか？」「何かお困りですか？」と優しく声をかけて、『何を、どんな風に手助けしてほしいのか』について話してもらうことで、適切な配慮につながります。



ここに気づいて！  
ヘルプマーク

人工関節を使用しており、不意にぶつかってこられると倒れてしまうので、予防として目立つようにヘルプマークを着けています。

発作やパニックを起こしたときのため、病院や保護者の連絡先をヘルプマークに書いています。電話で連絡するのを手伝ってほしいです。



片耳が聞こえづらいので、補聴器に気付いてもらえるよう、ヘルプマークを着けています。

## ヘルプカードについて

あなたの支援が必要です。

ヘルプカード



障害のある方のなかには、配慮や援助が必要でも、なかなか自分から伝えられない方もいます。ヘルプカードは、必要な支援や連絡先などの情報を書き込んで携帯することができ、災害や緊急時に手助けをお願いしやすくなるものです。ヘルプマークと組み合わせて使うことで、支援を受けやすくなります。※ヘルプカードをどのように作成・配布していくかは、各市町が決めています。